

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2021年1月18日

株式会社グ・ラン

「人とのつながり」が生んだ尾州ウールのアップサイクル

尾州ウールを使った雑貨の企画販売を手掛ける株式会社グ・ラン。ゴルフ漬の日々から未知なる繊維業界での起業など、人の縁と魅力的な繊維の世界について代表取締役山中忍氏に語ってもらった。

Company Data

株式会社グ・ラン

代表取締役 山中 忍

住所 一宮市明地字宮崎田64-1

電話番号 050-3707-5353

URL <https://www.gurun-works.com/>

紹介金融機関 いちい信用金庫



ゴルフ漬けから繊維の街へ ゴルフが見つない新たな道

15歳から21歳までゴルフ練習一筋の日々を送っていました。親にプロの道を勧められてゴルフを始めましたが、私自身はプロの難しい世界よりも早く社会に出たいと思っていました。

プロテスト・結婚・出産等を経て、誰も知らない場所で自分の力で生きていきたいと思いたち、交通の便がよい一宮に移住を決めました。そして、偶然、この地を中心とした繊維産地「尾州ウール」に出会いました。ゴルフ練習場で「ゴルフがうまいね」と話しかけてくれたのが、中伝毛織（株）の息子さんだったのです。入社を考えますが、これまでゴルフ一色の人生で世間を知らず、また繊維という全くの未知の世界へ飛び込むことに不安があり、とても悩みました。それでもやってみようと、2011年に入社しました。

基礎の基礎から

「もったいない」が起業のヒントに

当時の私は、「生地ってどうやってできるの?」というレベルでした。そのため、どうやって糸から生地や製品が出来上がるのかなど、数年かけて基礎から学びました。その中で、ブランドに採用されるほどの高品質を誇る尾州ウールの素晴らしさを実感する一方、一日何万トンという膨大に廃棄される生地や糸を「もったいない」と思うようになりました。新しい生地や糸、製品に再生できないか、と中伝毛織の社長に相談したところ、「当社から出る廃棄素材を使ってやってみたらどうか」と言って頂き、ポーチの販売を始めました。その後、ホビーショーでポーチの他、クッション、ひざ掛け等を販売したところ想像以上に好評であり、一念発起し起業しました。

当社のテーマは「アップサイクル」と「尾州」。本来であれば廃棄される素材を、新しいデザインやアイデアで、今までにない商品として生まれ変わらせること、そして尾州で作られた尾州のいいものを発信し続けることです。

そのため、尾州の廃棄物の回収業者をはじめ、商社、問屋、工場など分業化された繊維関係業者を回り、皆さんの理解を頂きながらアップサイクルの仕組みを整えていきました。

初めは気にも留めてもらえず、悔しい思いをすることも多々ありました。それでも、諦めずに3年間足を運び続け、やっと形になってきました。当社の強みは、そうやって築いてきた「縁」であり、1社だけの「点」ではなく、各取引先と「円」でつながれていることだと思っています。

社名の「グ・ラン」は、何があっても走り続ける、そんな私の姿を見た娘が「グッド・ラン」の略として命名してくれました。

尾州ウールの素晴らしさをもっともっと伝えたい

当社は、ホビーショーやキルトフェスティバルなど全国各地のイベントに足を運び、SNSでのPRにも力をいれています。イベント時には行列ができる程であり、中でも縦糸と横糸のみを使って絵柄を表現する尾州にしか作れない生地は特に人気です。

さらに、もっと気軽に尾州ウールに触れてもらえるよう型紙をセットした「楽々NEOパターン」シリーズも販売しています。生地工夫をしてあり、家庭用ミシンでも縫えるため、自宅でカバンからコートまで作れると好評です。

また、大手ネットショップ運営会社から声がかかり、2020年3月からはネットショップ「グランマルシェ」も立ち上げました。尾州ウールの品質の良い生地、糸などをハンドメイド市場向けに販売したところ、出荷が間に合わないほどの注文が殺到し、今も発送に追われる毎日です。

もっともっと多くの人に尾州ウールのことを知ってもらい、ファンを増やし、尾州の良さをPRしていきたいです。



**アップサイクルで地元貢献を
地縁・ご縁をフル活用で食品分野も開拓**

コロナ禍の影響により、アパレル、織物・繊維業界は厳しい状況で、産地業者への影響も始めています。当社のアップサイクルも、1社でも欠けたら回りません。出来ることには限りがあるかもしれませんが、この厳しい状況を地域一体となって乗り越えていけるよう、雇用創出等の面で少しでも尾州に貢献できたらと思っています。

また、金融機関の勧めもあり、繊維以外でも地域の産業の下支えをするため、当社のテーマであるアップサイクルの発想を用いて、食品販売事業に参入する準備を進めています。長野の実家が市田柿の産地で、規格外のリンゴ、梨、柿、カボチャ等を有効活用するため、一宮のジャム製造業者さんと連携して事業化に取り組んでいます。

祖父の教えと中伝毛織の理念を追求

これまで大切にしてきたのは、祖父の教えでもある「人とのつながり」です。また、中伝毛織(株)と子会社の匠染色(株)で学んだ「物造りを通して関わる全ての、人、企業、環境が、互いに皆感謝し幸せになる会社を目指す」という理念も私の大切な財産です。今後は、社内体制を整備し「いいものを追求する時間」を増やしていきたいと思っています。そして、自分だけではなく全ての人が幸せになれる会社になれるよう、これからも走り続けます。

